

平成27年度 学校自己評価（職員による年度末評価）

25 長野県屋代高等学校・附属中学校

平成28年2月 実施

職員による中間評価 A:十分 B:概ね十分 C:やや不十分 D:不十分 回答総数 72

評価項目	評価の観点	前期の取り組みの成果	後期への課題	職員評価				指標
				A	B	C	D	
キャリア教育	キャリア教育体制を検討し発展させることができたか。	学年行事「能登臨海実習」「職場体験学習」「イングリッシュキャンプ」「学習合宿」「修学旅行」を実施し、生徒の実態を把握した。（中学）		50	21	1		92.0
		大学・企業見学は生徒の刺激となり有益であった。（高1）	生徒の感想をまとめ次年度に残したい。（高1）					
		基本的に例年のキャリア教育体制に従って粛々と生徒への指導を進めた。（高1）	一貫生の3-4月の過ごし方を検討したい（高1）					
		例年の指導体制に基づきながら、春期の学習合宿など新たな企画も含めた取り組みも行った。（高2）	新課程入試に対応できるように授業進度を考えながら、生徒の現状に即した指導法について研究を深めたい。（高2）					
	進路情報を生徒・保護者に向け有効に発信できたか。	基本的に例年のキャリア教育体制に従って粛々と生徒への指導を進めた。（高3）			51	21		92.7
		学年通信、および不定期発行のキャリア通信を通して、キャリアに関する情報を発信した。参観日に保護者と学習状況を共有した。（中学）						
		学年通信やHRでの配布物を中心に進路選択や学習に関わる情報の提供ができた。（高1）	生徒や保護者からの疑問や意見などを取り入れ、より内容を充実させたい。（高1）					
		学年通信を中心に、各種進路資料を用いて進路情報を伝えることができた。また、総合学習においても進路について学ぶ機会を設けた。（高2）	学年通信等が保護者の手元まで届く方法を考えたい。（高2）					
	全教科にわたる総合的学力を養成し、国公立大学を中心に進路実現の可能性を拡げることができたか。	進路関連の資料や学年通信による、その時期に必要な情報を逐次発信した。（高3）			49	21	2	91.3
		学力推移の見直しを行った。希望模試（中3では5教科型）を各学年60名程度受験した。考査前に、質問講座を設けた。（中学）						
		模擬試験を利用し、過去問の取り組みや事後の復習で学力の伸長の意識付けができた。（高1）	模擬試験の複数回の復習を定着させたい。（高1）					
		「校外集中学集會」や「ハイレベル模試」を企画して、大学選択の際の視野を広げるように努めた。（高1）	拡がる学力差に応じた取り組みを行いたい。（高1）					
生徒の学力や生活実態などの情報を把握し、それを集団と個々に応じた指導に活かすことができたか。	各教科の指導の取り組み情報や考査毎の個人成績情報を学年で共有し指導に活用した。（高2）	個々の生徒にバランス良く各教科の学力をつけるため、教科間の連携や課題の調整が必要である。（高2）		42	27	3	88.5	
	全体としては5-7型で最後まであきらめずに学習に取り組む指導を行った。（高3）							
	学習実態調査の結果をもとに、HR担任・教科担任が連携して個別指導を行った。（中学）							
	学年会等で教員間の情報交換を密にできた。（高1）	クラス替え・講座編成に生かしたい。（高1）						
魅力ある、質の高い授業を提供できるよう教科指導の研鑽に努めることができたか。	「学習計画・実績表」をもとに、生徒の家庭学習およびスマホ利用を含む生活実態を把握し、面談指導等で生かした。（高1）	生徒の学習実態を継続的に把握し、学年や各教科で情報を共有したい。（高1）		45	25	2	89.9	
	各データを元に個別面談指導や、教科指導での活用ができた。（高2）	数年間のデータ蓄積による、現在の生徒像の理解と指導法の全体での共有が必要。（高2）						
	毎回の模擬試験後の分析に基づき、全体・教科・個別指導を実施した。（高3）							
	教員相互の授業公開を行い、主にアクティブラーニング型の授業を研究授業とし、各科で授業研究会を行う。（委員会）	さらなる授業改善に向けて、研究授業を充実させ、職員間で情報を共有する。（委員会）						
生徒の学習実態調査（家庭学習時間など）の結果を分析・研究することができたか。また、分析・研究の結果を指導に活かすことができたか。	アクティブラーニングの職員研修をキャリア教育係と共催し、自己研鑽の機会を提供し、評価方法の研究も行った。（委員会）	さらにアクティブラーニング型の授業の進め方や評価方法に関して検討し、職員間で共有する。（委員会）		43	24	5	88.2	
	スタディーサポートの結果を学年と共有し、生徒の実態を把握・分析し、面談などで活用した。（委員会）	自立・自律した学習者を育てるための仕組みを考え、データや情報を職員間で共有する。（委員会）						
	学習計画・実績表を生徒に書かせ、データ化することで、生徒への学習習慣づけに役立っている。（高1）	三者懇談会等でさらに意識化させたい。（高1）						
	校内の考査では、2週間前から試験勉強の計画表を書かせ、実績表にまとめさせた。（高1）	考査の成績とともに、振り返りの機会を設けたい。（高1）						
	スタディーサポート分析会を行い、学年集団の学習実態の分析を行った。また個人面談で生徒個々の家庭学習の助言を行ったりした。（高2）	生徒一人一人にさらに質のある家庭学習の時間の増加の取り組みをさせたい。（高2）						

評価項目	評価の観点	前期の取り組みの成果	後期への課題	職員評価				指標
				A	B	C	D	
生徒指導	通学中の交通事故をなくす努力ができたか。	例年に倣い、係や職員による街頭指導や交通安全教育（全校対象、新入生対象）を実施した。全校集会やHRで交通安全に関する指導をする中で、自転車運転時のヘルメットの着用を呼びかけた。交通事故は一昨年9件、昨年8件、今年6件と微減ではあるが、その中には大きな事故に繋がりがかねないものも含まれていた。（係）	交通安全やマナー面での呼びかけを、校風委員会と連携して実施していきたい。自転車通学時のヘルメットの着用を、新入生を中心に呼びかけていきたい。（係）	44	28			90.3
		S HR等での注意喚起を日常的に行った。（高1）	継続したい。（高1）					
	SHR・学年集会等で注意喚起を行った。（高2）	「命を守る」ことを念頭に継続的に指導したい。（高2）						
	いじめや暴力のない安全な学校生活を送るための啓発活動ができたか。	いじめに関するアンケート調査を行い、面談等に役立てた。日常的な担任からの指導を中心にして、生徒の啓発活動に努めた。（係）						
	SHRやLHR等を通じて、啓発できた。（高1）	継続したい。（高1）						
	SHR・LHR学年等で啓発を行った。（高2）	引き続き継続指導したい。（高2）						
生徒会	質実剛健の気風を大切に して、執行部と各会員が 一体となった自主活動の ための指導支援ができた か。生徒一人ひとりが、 生き生きとした活動を することができたか。	最大行事である鳩祭は、生徒会役員の実行力と生徒全員の協力により成功した。中高協力の企画も実現し、教職員の支援も十分に行われた。（係）	高校生と中学生の協力をさらに進めていきたい。また、60回目を迎える鳩祭をさらに充実させたい。（係）	56	16			94.4
		日々の委員会活動についても、生徒と顧問が連絡を取り合い、順調に活動を進めることができた。（係）						
		中学生徒会月歴を発行するとともに、本部会や執行委員会を毎週行い、定期的に見直しをもった活動ができた。（中学）						
		議案書への質問を広く募集したり、評議員会での審議事項を各クラスに公開して意見を集約したりするなど、執行部と会員の繋がりを深めることができた。（中学）						
		中学生も鳩祭において高校生と連携し、主体的に貢献して達成感を味わうことができた。（中学）						
		後期から3年生から引き継ぎ班活動も含め、リーダーとしての意識付けを執行部はもちろん学年全体で行っている。（高2）	学年としてバックアップ体制をしっかりとっていきたい。（高2）					
		文化祭では自覚と責任感から、生き生きと活動する姿を見ることができた。（高3）						
班活動では積極的に活動に参加し、多くの実績を残すことができた。（高3）								
校内美化	清掃用具の充実を図ると 共に、生徒が自主的に校 内美化を進められるよう に、指導・支援を行うこ とができたか。	清掃用具の補充、交換がまんべんなくできた。（係）	ゴミの分別が不十分なので徹底したい。（係）	35	30	7		84.7
		秋の落ち葉清掃を分担し、全校で外掃に取り組めた。（係）						
		清掃時間には生徒・担任協働で校内美化にあたった。（高1）	継続したい。（高1）					
		清掃時間に生徒・担当職員で清掃美化を行った。（高2）						
	HR教室の雑巾がけを行うことで床がきれいに保てた。（高3）	教室のワックスが剥がれている部分の修復ができるとよい。（高3）						
人権教育	すべての教育活動が人権 教育を基盤として行われ、 いじめや体罰のない 安心安全な学校づくり につながったか。	人権教育講演会は、講師武井美千代さんの話が素晴らしく、生徒たちの心を打ち「いじめ」について考えさせる良いものとなった。（係）	良いテーマと良い講師の選定が課題。（係）	51	21			92.7
		人権教育LHRは、各学年・各クラスで進め方をしっかり考えていただき、「いじめ」の問題を自分に引き付けて深めることができた。このLHRを参観してもらった南長野ブロッコ公開授業でも好評であった。（係）						
		LHRで生徒一人一人の人権感覚や意識を高めることができた。（高1）	さらに深めたい。（高1）					
		LHRで10月の講演の内容をさらにグループ討議で深めることができた。（高2）	さらに深めていきたい。（高2）					
学校運営	新しい学校づくりに向 け、普通科教育・理数科 教育・中高一貫教育およ びSSHのプログラムにつ いて研究を深め実践す ることができたか。	4期申請に向け「一人一研究α」「課題探究」を設置した。（SSH）	4期指定 or 経過措置の決定は3月下旬であり、その結果を受けて新たな取組みが必要である。（SSH）	52	20			93.1
		新しい教育課程を作成した。（SSH）						
		一貫生と選抜生の区別なく、学習集団づくりの意識を持たせた。来年度の講座編成について、より効果の上がる編成の研究・検討を進めている。（高1）	研究・検討を継続し、生徒・保護者にも理解と協力を求める。（高1）					
	本校の教育活動の成果 を、保護者、小中学生、 地域に伝え、特色ある学 校として理解してもら うことができたか。	P T A会報・学年通信等を通じて発信できた。（各学年）	さらに充実した発信を工夫したい。（各学年）	48	23	1		91.3
		情報係との協力の下、HPをリニューアルし、より見やすくなった。（係）						
	HP担当を中学と高校とにそれぞれ設けたことにより、中学・高校のそれぞれの特色や活動をよりきめ細かに発信できるようになった。（係）	引き続き情報収集に努め、小中学生や保護者・地域に発信していきたい。（係）						
	HP上にSSHのポータルサイトを立ち上げ、SSH活動を紹介した。また、係と協力して、中学校版も増設した。（SSH）	HPポータルサイトの充実。（SSH）						

指標は、A(4点), B(3点), C(2点), D(1点)として最高100点となるように換算しました。〔換算式〕 $25 \times (4 \times A \text{の数} + 3 \times B \text{の数} + 2 \times C \text{の数} + 1 \times D \text{の数}) \div \text{総数}$